

## 進捗状況の概要

### 1. 教育改革の実施状況

明石高専は本事業をきっかけとして、「教員が知識を伝えるだけの教育から学生が主体的に知識を探索し、その知識を使い、協働して何かを創造することができる力を養う教育」に大きく舵を切っている。平成 28 年度は自立、協働、創造の力を養うことを目的とした 4 学科（機械工学科、電気情報工学科、都市システム工学科、建築学科）2 学年、3 学年、4 学年の全学生 527 名と全ての専任教員 63 名による学科学年横断 PBL 科目（Co+work（コープラスワーク））を開講した（H27 年度 8 月から計画）。学生がチームごとに主体的にテーマを決め、実施計画を作り、アウトプットを行うプロジェクト型学修であるため、教員にはコーチング能力とファシリテーション能力が必要となる。そのため、教員間での意見交換や勉強会など教員の学びを AL センターでサポートし実施している（手引の作成・アンケートの実施など）。また、アドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーの見直し、策定を行っている。

### 2. アクティブラーニングの実践状況

具体的なアクティブラーニングの実践状況は以下のとおり。

- ・1 年必修科目「アクティブラーニング入門<sup>\*1</sup>」を開講（H27～）
- ・2～4 年必修科目「Co+work」を開講（H28～）
- ・感情を把握するふりかえりシートの開発・運用・分析
- ・教職員を対象とした教授法勉強会の開催
- ・授業と関連付けた FD の開催

事業 3 年目現在において、新規科目 2 科目を開講した。さらに、それら科目に連動した FD を実施している。また学生の感情把握について、オリジナルのふりかえりシートを用いて実践している。現在、講義形式の授業および PBL 授業（Co+work）の結果を分析している。PBL 科目での学生の感情変化と座学での感情変化の差異や、この変化を捉えたうえで教員がどのようにアプローチするかなど検討を重ねている。

その他、学内環境の整備を進めており、より一層学びやすい環境が整いつつある。

### 3. 達成目標と事業内容に沿った進捗

①「アクティブラーニング入門」開設、次期 AL 関連カリキュラムの検討 ②定期的な教職員勉強会の開催 ③教職員の学外研修会への参加、AL、AP 事業実施他大学などへの視察 ④感情フィードバック手法の検討 ⑤講義外活動の充実 ⑥学内 AL 環境の活用と使用状況調査 ⑦卒業生追跡調査の実施 ⑧有識者懇談会、シンポジウムの開催

上記の平成 27 年度事業内容の中で⑦卒業生追跡調査のみが遅れている。他の 7 項目については順調に実施されている。

### 4. 学内の実施体制

アクティブラーニングセンターが中心となり、FD 委員会、教務委員会と連携しながら実施する体制が整っている。また、本事業雇用者を適切に配置することで、事業推進の加速度を高めている。詳細は、後述する。

### 5. 補助期間終了後の継続発展への方策

入学間もない学生への初年度教育としてアクティブラーニング入門、2 年～4 年は全教員が行う正課科目に PBL 科目を導入することで補助期間終了後も継続的にアクティブラーニングが実践される。

※1. H27 年度は「アクティブラーニング I」として開講。H28 年度から現在の名称。